

# CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 10 No.9 2008年5月15日号

編集:[editor@cnar.jp](mailto:editor@cnar.jp) 広告:[pr@cnar.jp](mailto:pr@cnar.jp) 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2008 CNA Report Japan. All rights reserved.

## 製品・サービス動向-国内

### プリンストンテクノロジー、DSTMedia の MCU 新製品をリリース



#### MCS4200 シリーズ

プリンストンテクノロジー株式会社(東京都千代田区)は、DSTMedia 社の多地点接続制御装置(MCU)の新製品として「MCS4200 シリーズ」を発表した。

MCS4200 シリーズは、IP ネットワーク専用(H.323/SIP)でこれまでの「MCS4000V シリーズ」の基本機能を踏襲した後継モデルとなる。今回

MCS4200 シリーズの販売開始によって、MCS4000V シリーズは在庫限りで販売を終了する。

「MCS4200 シリーズは、これまでオプションであったゲートキーパー機能を標準搭載したほか、ユーザに求められる実用性や機能性をさらに高めたモデルだ。」とプリンストンテクノロジーは、MCS4200 シリーズの特徴を説明する。

その他の特徴としては、最大 16 画面分割表示、28 通りの表示レイアウトパターンの対応、日本語対応に対応した運用管理ソフトウェア「MCS Manager (MCS マネージャー)」と

Web ブラウザからの運用、管理を可能とする「MCS Web Manager (MCS ウェブマネージャー)」などがある。また、保守の面でも、新たに初年度オンサイト保守サービスを標準で添付した。ただし、2年目以降のオンサイト保守は有償となる。

MCS4200 シリーズは、5モデルを提供。モデルに応じて税抜き 360 万円から 1180 万円となっている。(システム構成によって金額は変わる。)

DSTMedia 社は、ポリコムが 2005 年 9 月に買収した中国の MCU 専門メーカー。プリンストンテクノロジーは、ポリコム Platinum 認定代理店。

【モデル別接続拠点数】

モデル	接続通信速度												多地点会議 最大開催数 (会議予約を含む)
	128k	256k	384k	512k	768k	1024k	1280k	1536k	1920k	2560k	3072k	4096k	
MCS4206	6	6	6	6	6	3							6
MCS4209	9	9	9	9	9	4							9
MCS4212	48	24	12	12	12	6							24
MCS4218	72	36	18	18	18	9							32
MCS4224	96	48	24	24	24	15				6			32

#### NTT ビズリンク、東京～上海 HD テレビ会議 デモルーム開設

NTT ビズリンク株式会社(東京都文京区)は、日本と中国の間の HD テレビ会議が体験できるデモルームを 4 月 12 日に開設した。

デモルームは、同社の東京オフィスと、中国における NTT コミュニケーションズ株式会社の子会社のひとつで上海浦東地区にある、Shanghai NTT Telecommunications Engineering Co., Ltd.(以下 SNTE)に設置した。

今回のデモルーム開設の目的について、NTT ビズリン

ク 取締役 ヴィジュアル・コミュニケーション事業部長 佐藤健治氏は以下のように説明する。「日中間の IP テレビ会議の需要は今後必ず増えてくると予想している。なぜなら、両国間のビジネス商取引の規模は年々拡大している傾向を示しているからだ。日本企業による対中国直接投資や現地法人設立の増加、それに加え、航空機によるシャトル便の開設はその傾向を裏付けしている。そしてその傾向に弾みを付けるかのように今年8月の北京オリンピックや2010年開催の上海万国博覧会などが控えている。そういった状況を受けて、当社を含めた5社は共同で、日中企業を対象とした、端末からネットワークまでワンストップのサービスを提供できる体制を確立した。デモルームはその一環として開設した。」



上海 SNTE 側と接続したデモ

デモルームは、数名から十人程度まで一度にデモを見ることができる部屋で、ライフサイズ・コミュニケーションズ社と株式会社日立ハイテクノロジーズにて提供している HD テレビ会議システム「LifeSize Room(ライフサイズルーム)」とプラズマディスプレイが設置されている。また回線については、NTT ビズリンクの「フレッツ IP 多地点サービス」と NTT コミュニケーションズが提供する「Arcstar IP-VPN」を接続することによって、両方のデモルームが 2Mbps の回線で接続されている。

この HD テレビ会議のデモは、基本的には、NTT ビズリンクの東京オフィスか上海の SNTE に出向くことで見ることができるが、自社でテレビ会議システムを所有している場合は、

NTT ビズリンクのネットワークを経由して上海のデモルームに接続する方法でも可能だ。しかしその方法だと、デモ希望者側で NTT ビズリンクが示す接続条件を満たした回線を用意する必要がある。なお、HD テレビ会議システムは、NTT ビズリンクで用意することができる。

デモは事前予約で受け付けており、上海には、日本語、中国語のスタッフが常駐しているため、いずれかの言語で対応は可能だ。「まずはデモルームで、高品位な HD テレビ会議サービスを体感して頂きたいと考えている。導入から利用まで万全なサポートをさせて頂く。」(同 佐藤 健治氏)

佐藤氏は、テレビ会議を取り巻く環境は整ってきたと見ている。端末は単にコストが下がってきただけではなく、映像や音声の品質も従来とは比べ格段に向上したとともに、それを支えるネットワークの品質も非常に充実してきたと考えている。「必要な出張はしなければならない。そこに異論はない。しかし、そこにテレビ会議が加わることで、お互いの意思疎通に対してより太いパイプを作り出すことが出来る。ただ、そこでは出張とテレビ会議の使い分けが肝心になる。つまり節目では出張を行うが、それまでの事前の調整はテレビ会議に置き換えるという考え方だ。さらに、緊急の打合せに出張ではタイムラグが生じるが、テレビ会議があれば即座に相手とコミュニケーションが行える利点も忘れてはならないと思う。」

NTT ビズリンクは、IP と ISDN に対応したテレビ会議多地点接続サービスを提供しており、現在約 2,000 社の会員ユーザー企業に利用されている。多地点接続サービスに加え、端末操作のアシストからトラブルシューティングまで含め包括的に対応する運用サービスなどテレビ会議サービスをワンストップで提供している。また、国内の B フレッツ回線を使用したフレッツ IP 多地点サービスと同等のサービス品質で海外の拠点とも接続できるように海外 IP テレビ会議接続サービスも提供している。

## 業界ビジネス動向-国内 NTT アイティの Web 会議ソリューションがフ ロスト&サリバンのアワードを受賞



### MeetingPlaza

NTTアイティ株式会社(横浜市中区)は、Web 会議ソリューション「MeetingPlaza(ミーティングプラザ)電網会議システム/サービス」で、フロスト&サリバン社 2007 年度「Market Leadership Award(マーケット・リーダーシップ・アワード)」を受賞した。各市場でトップシェアを獲得したマーケットリーダー企業にフロスト&サリバン社から授与される賞だ。

今回の受賞にあたって NTT アイティでは以下のようにコメントを出している。「MeetingPlaza が日本の Web 会議市場において、顧客サービス、市場開拓、製品開発、技術力等の面において極めて優れていることを高く評価いただいた。このたびの受賞を機に、今後も日本の Web 会議システム及びサービスの分野におけるマーケットリーダーとして、MeetingPlaza の継続的な発展及び価値提供を目指して努力していきたいと考えている。」

NTT アイティ インタビューレポート

<http://cnar.jp/home/CNAarchive/cnar-08-NTT-IT.pdf>

## SOBA プロジェクトの無料 Web 会議サービスの 登録ユーザが 1 万人を達成

株式会社 SOBA プロジェクト(京都市左京区)は、同社が開発と運営を行う「SOBA CITY(ソーバ シティ)の登録ユーザ数が 2008 年 4 月末現在で 1 万人を越えたと発表した。また SOBA CITY 上でのオンライン広告も開始した。

SOBA CITY は、チャット、ホワイトボード、Windows アプリケーション共有などが行える、映像と音声を使った無料のビジ

ュアルコミュニケーションサービス。2006 年 3 月より開始して 2 年間で達成したことになる。SOBA プロジェクトでは、この無料サービスとともに、2006 年 12 月より有料版の [SOBA mieruka(ソーバミエルカ)も提供している。

(関連記事:Vol.9 No.6 2007 年 3 月 15 日号)

## 業界ビジネス動向-海外 AT&T とシスコシステムズ、テレプレゼンスマ ネージドサービスで提携

AT&T 社とシスコシステムズ社は、Cisco TelePresence (シスコ・テレプレゼンス)ソリューションと AT&T の IP ネットワーク及び VPN 機能を統合したマネージドサービス「AT&T Telepresence ソリューション」をグローバルに展開することで合意したと 4 月 21 日にプレスリリースに発表。

両社は、「企業や団体におけるテレプレゼンス技術の活用と発展を実現するため、今回の提携に至った。」と提携の目的について説明する。シスコシステムズ社にとって AT&T は Cisco TelePresence を本格的に提供する初のプロバイダーになる。

AT&T 社においても、既に Cisco TelePresence を米国の 11 拠点で導入しており、来年にはこれを全世界へと拡大する予定だ。

この AT&T Telepresence ソリューションは、AT&T が、Cisco TelePresence 機器に関する導入工事、モニタリング、運用管理、ネットワークのプロビジョニング(AVPN の移行を含む)、リモート・ヘルプデスク、及びオンサイトメンテナンスを提供する。さらに利便性を向上させる Meet-me 機能やコンシェルジュ・サービスなども提供する。

サービスは、2008 年下半期に 23 カ国で提供を開始し、2009 年にはその他の国においても展開していく予定だ。すでに、両社では主要顧客に対して試験的な導入を開始しているとともに、ヘルスケア、ハイテク、小売、政府機関をはじめとした米国本社が多国籍企業や選抜した米国外に本社を持つ企業を対象に積極的な営業活動も展開しているという。その他、多様な業界のユーザに最適化したソリューションの開発に力を入れることでも両社は合意している。

今回の提携の一環として、AT&T 社は、IP VPN サービスで「Cisco Powered TelePresence Connection

Certification(シスコ・パワード・テレプレゼンス・コネクション・サーティフィケーション)」の認定も受けた。この認定は、AT&T のネットワークが Cisco TelePresence アプリケーションをサポートするための質や性能、信頼性レベルの必要条件を満たしていることを保証するもの。

AT&T の IP VPN サービスは、グローバルネットワークサービスの基盤。米国外に 50 以上の Tier 1 の PoP(ポイント・オブ・プレゼンス)を持ち、143 カ国に MPLS(Multiprotocol Label Switching)ベースのサービスを支える 3,700 のサービスノードを通じて 1 営業日当たり平均 14.5 ペタバイトのデータトラフィックを流通させている。同社によるとその規模は世界最大という。

### ライフサイズ社、Tech Data 社とカナダ、南米の市場開拓強化

ライフサイズ・コミュニケーションズ社は、同社の HD テレビ会議システムのディストリビュータである米 Tech Data Corporation 社との提携を拡大したと発表した。



#### LifeSize Express(ライフサイズ・エクスプレス)

Tech Data 社とは、2007 年 11 月に北米でのディストリビューションで提携したが、今回、カナダと南米においても提携することになった。Tech Data 社は、ネットワークやテレフォニーなどの通信系の製品やソリューションを手がけており、特に SMB(中小企業)へのリーチに強みを持つ。フォーチュン 500 社で 105 番目の企業。年商 23 億 4000 万 USD。北米でのリセラーチャンネル構築の実績から、他国でも同様な展開を期待されているようだ。

両社は、共同でのマーケティング活動やチャンネル開拓の取り組みを行う。そのひとつに、たとえば、カナダでは、Tech

Data 社主催の 6 都市商談会 (six-city Business Builder Tour) への参加することで既に決まっている。

### タンバーク社、パーソナル・テレプレゼンス機器の出荷台数が 1 万台に到達



#### TANDBERG Centric 1700 MXP

タンバーク (TANDBERG) 社は、同社の「TANDBERG Centric 1700 MXP(タンバーク・セントリック・1700 MXP)」の出荷台数が 1 万台に到達したことを発表した。タンバーク社は、同製品を、パーソナル・テレプレゼンス機器としてプレスリリースで紹介している。

1 万台目を購入したのは、欧州最大のメール/エクスプレス配送サービス企業である TNT 社で、同社の環境問題の取り組みの一環として、同社では、2008 年の出張の回数を 20%削減する目標を掲げるなど、ビデオ会議システムの活用を積極的に進めているという。

TNT は、200 カ国以上でサービスを提供し、約 16 万 1500 人の従業員を抱えているグローバル企業。2007 年の売上高は、110 億 EURO。アムステルダム証券取引所上場。

出荷台数が伸びている背景には、テレプレゼンスの使用に対する関心が急速に拡大し、会議室だけでなく、個人の机の上での使用が増加しつつあると同社では分析。「ビデオ会議のパーソナル化によって、各従業員の席から通話をする時代がすぐそこまで来ている。」(タンバーク社)

TANDBERG Centric 1700 MXP は、Profile シリーズや Edge シリーズとあわせ、日本市場では、2006 年 8 月に発表されている。TANDBERG Centric 1700 MXP は、内蔵 HD カメラと 20 インチフラットモニター、スピーカ、マイクを

内蔵するオールインワンタイプのデスクトップシステム。

## タンバーク社、マイクロソフト社と高品位 USB カメラの開発計画を発表、また、マイクロソフトのコーデックをライセンス利用

タンバーク社(TANDBERG)は、3月20日、マイクロソフト社のユニファイド・コミュニケーション・プラットフォーム連携する高品位 USB カメラの開発計画と、マイクロソフトの技術である RT Video Codec と RT Audio Codec のライセンス供与を受けることを発表した。

タンバーク社は、すでに自社のビデオ会議システム製品と Microsoft Office Communications Server(マイクロソフト・オフィス・コミュニケーションズ・サーバ)との相互運用性を提供しているが、今回の発表は、マイクロソフトのユニファイド・コミュニケーション・プラットフォームに対する同社の取り組みをさらに発展させるものになる。

まず、USB カメラ開発について。マイクロソフト社は、Microsoft Office Communications Server(マイクロソフト・オフィス・コミュニケーションズ・サーバ)の次期リリースで高品位ビデオをサポートする計画。今回発表された高品位 USB カメラの発表はこれに関連したものになる。つまり、高品位のビデオコミュニケーションの利用範囲を、テレプレゼンスシステムやグループ会議システムから、個人のデスクトップにまで拡大したい考え。

次に、RT Video Codec と RT Audio Codec のライセンス供与について。RT Video Codec と RT Audio Codec は、マイクロソフトの独自仕様コーデック。「Microsoft Office Communications Server 2007」、「Microsoft Office Live Meeting 2007(マイクロソフト・オフィス・ライブ・ミーティング 2007)」に実装されている。タンバーク社が対応することで、H.264 ベースの HD ビデオ会議と、RT Video Codec ベースのマイクロソフト・ユニファイド・コミュニケーションとの相互運用性をさらに高める。

## タンバーク社、インドに R&D センター開設

タンバーク社は、インドのバンガロールに R&D センターを開設した。同社にとっては、オスロ、ロンドン、ニュージーランドに次ぐ第4番目 R&D 拠点となる。最新の設備を揃え、ビデオ会議システムに関する技術開発を行う。

タンバーク社は、フォーチュン500社のR&D拠点が集中するインドのシリコンバレーと言われるバンガロールに今回 R&D 拠点を開設することに大きな意義を感じているとともに、さらなるグローバルプレゼンスの拡大にとって重要な“一歩”になると考えているようだ。

このR&D拠点は、タンバーク社の100%所有の子会社 TANDBERG Technology India Private Limited として既に設立。Pradeep Bardia 氏が同センターの責任者となる。同氏の前職はアメリカのテキサス・インスツルメンツ社。ビデオテレフォニー関連の事業を統括してきた実績がある。

## 市場動向

### グローバルインフォメーション、フロスト&サリバン社のアジア太平洋ビデオ会議調査報告書販売開始、アジア太平洋市場は拡大基調に転換、市場規模は2億9700万USD

米調査会社フロスト&サリバン社がアジア太平洋地域のビデオ会議市場にフォーカスした市場調査報告書「Asia Pacific Videoconferencing Endpoints Markets CY 2007」を2月に発刊。アジア太平洋地域の14カ国を網羅。

それによると、2005年の実績停滞から力強い回復を見せ、過去2年間は拡大基調に転換していると報告している。2006年と2007年の全体の売上の拡大は、それぞれ20.3%と17.6%と前年からの伸びを見せ、売上ベースで2007年には、2億9700万USDの市場規模になった。また2014年には、6億4770万USDに達するとも予想する。

最大市場は、中国であり、全体のうち56%(1億6600万USD)を占める。これに日本(19%)、オーストラリア(10.4%)、インド(7.7%)と続く。

フロスト&サリバン社は、このトレンドを後押しする背景として、リアルタイムコラボレーションに対するニーズの高まり、HD テレビ会議システム、テレプレゼンスシステムが好調であること、そしてユニファイド・コミュニケーションへの注目の高まりなどがあると見る。

一方企業では、環境問題や環境への対応に関する社会的責任などへの関心の高まりのほか、従来から指摘されている出張費の削減、ビジネスのグローバル化、テロの脅威、あるいは、ネットワークインフラの改善などが需要の伸びを下支えしていると分析している。

この調査報告書は日本では、株式会社グローバルインフォメーション(神奈川県川崎市)が「ビデオ会議エンドポイントのアジア太平洋地域市場」英文調査報告書として販売している。同社では、ビデオ会議関係ではフロスト&サリバン社以外にも、ウェインハウスリサーチ社の報告書なども取り扱う。

IT、医療、バイオ、など幅広い産業をカバーし、海外の調査会社が発行する各種調査報告書の提供、また海外、国内200社以上の調査機関との連携した委託調査やコンサルティングなどを行っている。調査報告書については事前の閲覧サービスも提供している。

## セミナー・展示会情報

### 情報通信設備展ビジネスコミュニケーション

東京 2008

日時:5月22日-23日

会場:池袋サンシャインシティ文化会館3F

主催:株式会社リックテレコム

月刊テレコミュニケーション編集部

中小企業のIT入門マガジン「COMPASS」編集企画室

詳細:<http://www.ric.co.jp/expo/bct/index.html>

\*ユニファイド・コミュニケーションやWeb会議システム関連のセミナーセッションや展示もあり。

**ここが知りたかった!新商品並びに最新テクノロジーを一挙に公開、ご好評につき今年も開催! テレビ会議トップ3メーカー(ポリコム・ソニー・タンバーク)集結セミナー**

日時:5月23日(金)13:30~17:00(受付開始 13:00~)

場所:株式会社大塚商会 ITソリューションセンター(大阪)

主催:株式会社大塚商会

協力:ポリコムジャパン株式会社、

ソニーマーケティング株式会社

日本タンバーク株式会社

詳細・申込 <http://event.otsuka-shokai.co.jp/08/w0523bb/>

**【無料セミナー】NGN時代における最新のWeb会議サービス! ~ Saas型リモートオフィスコミュニケーションで企業はもっとコストダウンができる ~**

日時:5月27日(火)15:30~17:30(受付 15:15~)

会場:秋葉原 UDX

主催:サイボウズ・メディアアンドテクノロジー株式会社

詳細・申込:<http://shop.ns-research.jp/3/8/11462.html>

\*シード・プランニングの原健二氏の基調講演

「テレビ会議/Web(PC)会議の最新市動向とユーザ動向」。

**Polycom Day ~ ビデオ会議の海外展開をスムーズに! ユーザー事例とポリコム グローバル サービスのご紹介**

日時:6月5日(木)14:00~16:45 (13:45 受付開始)

会場:ポリコムジャパン株式会社 セミナールーム

(東京都千代田区)

主催:ポリコムジャパン株式会社

詳細・申込:<http://www.polycom.co.jp/event/080605/>

\*松下電器産業によるユーザ事例発表もあり。

## ZDNet Japan スペシャル

ZDNet Japan (<http://japan.zdnet.com/>) スペシャルで2月7日より「進化するテレビ会議」特集が始まりました。その中で、橋本もコラムを何回か書かせていただくことになりました。よろしければご覧いただければ幸いです。今後とも宜しくお願い致します。

進化するテレビ会議

<http://japan.zdnet.com/sp/feature/visualcomm/>

- (11) --ソニー:AV メーカーらしさを追求したビデオ会議システム(5月13日)
- (10) --ウェブエックス:実務者の共同作業に適したウェブ会議(4月24日)
- (9) データ共有でメリット活かすウェブ会議システム(4月10日)
- (8) 導入しやすくなってきた会議システム(4月3日)
- (7) 単純には進まなかった会議システムのIP化(3月27日)
- (6) アエスラ:通信機器のノウハウ活かす会議システム(3月19日)
- (5) タンバーク:業務を革新させるビデオ会議システム(3月10日)
- (4) ポリコム:会議の質を変えるHD対応からテレプレゼンスへ(2月29日)
- (3) NTT アイティ:会議システムは業務改善ツール(2月21日)
- (2) ビジュアルコミュニケーションの歴史(2月14日)
- (1) ホウレンソウと遠隔会議システムの深い関係(2月7日)

## 編集後記

今回もお読み頂きまして有り難うございました。

セミナー・展示会情報は随時アップデートしていますので、よろしければ<http://cnar.jp>のセミナー・展示会情報をご覧いただければと存じます。

CNAレポート・ジャパン 代表 橋本 啓介